

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100247		
法人名	医療法人岡仁会		
事業所名	グループホームきょうりつ		
所在地	大分県大分市大字奥田30-1		
自己評価作成日	平成23年6月28日	評価結果市町村受理日	平成23年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100247&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館 1F
訪問調査日	平成23年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様が充実した毎日を送れるよう、毎月ドライブレクを計画したり、ボランティアを導入したりして生活に変化を持たせるよう努めている。
 ・入居者様の支援にとどまらず、ご家族や地域に開かれた施設を目指しており、実際に入居者様の家族がホーム内のゲストルームに宿泊し、入居者様との時間を楽しめる様、支援を行っている。
 ・母体の病院と併設している為、緊急時でも迅速な対応が可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店や住宅が立ち並ぶ中心街に、病院と併設して建てたホームです。母体が地域に根付いた医療機関であることからホームの認知度は極めて高く、医療と福祉の連絡がとれ、その特性を活かし、緊急時や夜間の対応も充実し、家族の安心も得ています。ホームでは居室に全室量が敷かれ、馴染みの物を置き、自宅で生活する様な雰囲気を作られ、家族も面会に訪れやすくゲストルームを用意し、宿泊可能な対応を行っています。又地域密着型サービスの意義を職員全員が認識し、地区の清掃活動に利用者や参加したり、回覧板や市報を回してもらったりと、地域とのコミュニケーションを図る努力を目標にしています。「笑顔、真心、尊重」を理念に掲げ、利用者の個性や生活習慣を尊重し、安心、安全、穏やかに暮らせるよう、サービスの質の向上に真摯に取り組んでいます。家族からのアンケートで、帰るときに掛けられる「ありがとうございました」の温かく明るい職員の声に安心します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(こもれび)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、職員会議で理念を復唱している。全職員が、理念を理解し、実践につなげられるよう、事務所および職員控え室に理念を掲示している。	管理者と職員全員で、利用者が家庭的な環境と地域の方々との交流の下で、暮らし続けることを支える事業所独自の理念がつくられています。職員は理念の実現に向け日々の業務でどう取り組み、具体化しているかを、会議で取り上げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回地域の清掃活動に参加している。また、自治会長より“あけがわらの回覧板”を回していただき、参加できる地域行事には参加できるように努めている。	自治会の入会はないが、回覧板、市報等を回して頂き、近隣の方々の理解もあり、月1回の地域の清掃活動にも職員と利用者が参加しています。又地域の行事、祭り、運動会等の誘いにも参加できるように、計画を立てています。	地域に根ざした施設を目標に、もっと地域に出向いて行くことを考えています。キャラバンメイトを講師として地域の方に「認知症」の理解を広げる等地域との交流を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市が主催する認知症家族介護支援事業説明会に参加し、認知症家族介護支援講座のハンドブックを参考に全職員で勉強会を行っている。今後キャラバンメイトを講師として招き、ご家族や地域の方と認知症の理解を深めたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っており、そこで頂いた意見については、迅速に取り組み次の運営推進会議で経過報告を行っている。	運営推進会議では、グループホームの状況の報告が主であり、ホームの諸問題について検討し、改善に努めています。記録もファイルされ職員にも周知されています。	委員から活発な意見を出してもらう為には、事業所からテーマを決めて話し合うことで、質問、要望等を受け、より双方向的で有意義な会議になることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必ず運営推進会議を通じて市の担当者に相談し、業務改善に努めている。また、市が主催する研修会などには、積極的に参加している。	運営推進会議の時に、市の担当者に運営状況を報告したり、困り事の相談や課題解決の話し合いをするなど、連携を図っています。又市主催の研修会や会議に参加し研鑽しサービスの向上に取り組んでいます。	行政との協力や、信頼関係が築けるよう積極的に働きかけることが期待されます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議で、利用者の安全面に配慮しながら、臨機応変に見守りや声かけなどを行い拘束をしないケアを実践するよう全職員に、周知徹底している。現在、身体拘束は行っておらず、玄関の施錠も夜間のみしか行っていない。	日々の業務の中で身体拘束の弊害について勉強し、全職員が理解に努め、言葉の拘束にも十分気をつけています。玄関、居室の施錠もなく、見守り、声かけを行い閉塞感を感じさせない配慮を行い、徘徊のある利用者には「24時間シート」を記入して、利用者の気持ちや行動を把握し、リスク防止の改善に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現時点では、外部研修参加の予定はないが、日々の支援の中で職員同士が声を掛け合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員が個人的に学んでいるだけで、事業所内での研修会を行った事はない。今後は、全職員が制度の理解及び活動ができるように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については、管理者が行っており、十分に説明し、納得された上で、署名・捺印を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席いただき、発言の場を設け、意見・要望をできる限り反映するよう努めている。また、苦情については、管理者が窓口となっており、前向きに取り組むよう、全職員で話し合う機会を設けている。	家族の来訪時には、職員は話しやすい雰囲気作りで配慮したり、職員から意識的に声かけをし、家族の意見や不満などを引き出し運営に取り入れるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、毎月の職員会議で出し合っている。また、日頃から職員との積極的なコミュニケーションを図り意見交換を行うように努めている。	月1回グループ会議があり、管理者は職員とのコミュニケーションを大事にし、職員も意見を出しやすい雰囲気にあります。改善要望があれば、1ヶ月間実行し、その後検討をする等職員全員で作る業務内容を目指しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会及び資格取得に向けた支援を行い向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加させ、スキルアップができるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修会には、それぞれの職員に合った内容のものに参加を促し、資格なども進んで取得できるように、協力体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集も含め、今現在の本人の要望や不安などを引き出せる環境を作るよう心がけている。また、家族からの情報収集も密に行い、よりよい支援ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時にご本人及びご家族の要望や意見を聴き、対応している。また、家族から要望が出しやすいように、関係作りを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で、ご本人にとってどのようなサービスが必要かをご家族も含めて話し合い、当事業所以外のサービス内容についても説明し、提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や掃除など、日々の生活の中で、本人の得意とするものをゆっくりと引き出せるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、こまめに連絡を行い、意見や要望を密に聞き取り、共に支援していく関係を築いていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開放的な施設の環境づくりに努めており、現在では、入所者の昔の友人や同僚、ご近所の方々等の訪問がある。	ホームには多くの来訪者があり、家族、知人、友人、近所の方等が面会に来ています。又家族の協力で馴染みの美容院や外食に行ったりと今までの関係が継続できるよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やホールで過ごす際の場所を考慮している。利用者同士で交流が深まるよう、利用者主体の“歌の会”を開いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、入居者様への支援内容や注意点等の情報提供を行い、退所後は職員が面会に行くなどしている。ご家族様より経過報告や相談を受ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は、本人に直接聞くようにしている。本人より聞き取りが困難な場合は、日々の関りの中で、思いや意向の把握に努めている。	センター方式を使い、利用者の日常を支える職員全員が利用者と家族に関する情報や気づきを共有し、一貫したケアを実践しています。普段の生活から言葉による把握だけでなく、表情や態度によっても把握するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子を観察し、心身状態の把握に努めている。全職員が入居者様の現病歴を把握し、入居者様一人ひとりの心身状態に合わせたバイタルチェックを行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が主体となり、本人・家族の意向をふまえながら、カンファレンスにて他職員の意見を取り入れ、介護計画を作成している。	日頃の関わりの中から、より良く暮らすためのニーズや希望を汲み取り、計画を作成しています。又家族からの情報、要望を参考に、ユニットごとに職員で情報交換を行い検討し、意見を反映した介護計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録や職員カンファレンスを通して、見直しや介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望のある入居者様には、ご家族と協力して、本人が暮らしていた家に行ったりと、柔軟に支援している。また、突発的な発病時などは病院へ付き添い受診等を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において、参加者の皆様から地域の情報をいただいたり、地区の回覧板を回していただくなどして情報収集に努めている。また、スーパーやコンビニに入居者様と一緒に買物に出かけるなどの支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のかかりつけ医への受診を基本とし、ご本人・家族の希望に沿った医療機関への受診を心がけている。	基本的に本人や家族の希望するかかりつけ医となっています。隣接する母体病院との医療連携体制もとれており、定期健診や相談にも応じています。受診には家族が同行しますが、職員が対応した場合は、家族に結果報告を行い、職員間では申し送りノートにて情報の共有を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士より、入居者様の状態について、その都度、報告・連絡・相談があり、看護職より適切な指示が出されている。また、隣接している母体医療機関の看護士とも密に連絡を取り、協力関係を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関の看護士及びMSWと連携し、情報収集に努めている。また、医療機関へ管理者及び看護士が向向き、直接本人の情報収集を行い、ご家族とも話し合いながら、退院後の受け入れがスムーズにできるよう、環境調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明を行っており、終末期が近づいた場合は、かかりつけ医、家族、管理者、看護士、介護士で今後の方向性を話し合う機会を設けている。	契約時に終末期に向けた方針や、ケアについて、利用者、家族に説明し同意を得ています。職員間でも終末期ケアについて勉強会を行い、チームで支援する体制にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している。ノロ対策については、定期的に訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。入居者様には、災害等に備えて、各自リュックを準備していただいている。	年2回の消防訓練を行い、夜間を想定しての訓練も実施しています。隣接する病院、他の施設からの応援も期待できます。又各自リュック(衣類、防寒具、オムツ等)を準備し非常時の対応に備えています。	今後も運営推進会議を生かして地域住民の理解と協力を得ながら災害時の対応について、検討の継続を期待します。又災害時の備蓄は病院での備えはあるが、ホーム独自の備蓄も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回の職員会議にて、言葉遣いを始め、プライバシーや尊厳について、意識を高めるよう指導している。	職員は会議、接遇研修を通じて、利用者への言葉掛けや対応が大切である事を十分認識しています。理念にもある「尊重」の下にプライバシーや尊厳を守るように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、入居者様のペースを大事にするよう心がけている。また、できる限り“開かれた質問”を行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の1日の流れについては、特に決めておらず、ご本人の意思を尊重し、無理強いすることなく、本人のペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個人個人の好みにお任せしている。家族の希望がある場合は、ご本人に納得していただいてから、着用していただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調を見ながら、食事の準備や後片付けを一緒に行っている。また、入居者様からの要望があったおやつ作りを月に3～4回、職員と一緒にしている。	利用者と職員が同じ食卓で困み、会話を楽しみながら食事をしています。職員も利用者と一緒に触れ合う良い機会と大切にしています。食後の片付け、おやつ作り等出来ることを行ってもらい、手作り弁当を持ち公園に行き、気分転換を図り食欲が出るよう支援をしています。	基本的に食事は隣接する病院から配られていますが、利用者にも食事の楽しみが増えるよう、メニューを一緒に考えたり、嗜好調査を参考に希望を取り入れる事を望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	サービス記録表に栄養・水分量等を毎日その都度チェックし、一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者が口腔ケアを行っている。また、協力医療機関の歯科医の指導の下、その方に合った個別支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行い、自立に向けた支援に努めている。	排泄チェックシートを作り一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っています。排便のリズムを作るために朝食後のトイレ誘導や食事、体操、散歩等を積極的に取り入れ工夫をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて、入居者様の排便リズムを把握し、なるべく下剤を使用しないように、運動を取り入れたり、ヨーグルトや果物を提供したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1週間に3回と決めており、時間帯は、入居者様の希望に添う様、対応している。	週3回、午前中の中の入浴となっていますが、本人が望む時間に入浴が出来るよう努力をし、今後の課題としています。	利用者のこれまでの生活習慣や、希望に合わせた入浴になるよう職員のローテーションなどに工夫し、個々に沿った支援を望みます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩時間、就寝時間は、入居者様の習慣や体調に合わせて、見守りを中心に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬当番を決め、全職員が携わり周知徹底できるように努めている。また、薬品説明書を1冊のファイルにし、全職員がいつでも確認、把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を取り入れて、入居者様の情報把握に努め、一人ひとりの能力等に合わせた役割や楽しみを提供できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物などは積極的に行っており、また毎月少なくとも1回は車でドライブを実施している。施設で対応が困難な場合は、家族の協力を得、できる限り希望が叶えられるように支援している。	日課の中に散歩を取り入れ利用者の気分転換やストレス発散、五感刺激の機会を作っています。又家族との絆を大切に、家族やボランティアの協力を得て、月に1回外食やドライブ等の外出レクを計画し実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の能力に応じて、自己管理できる方とできない方とに分かれるが、入居者様の希望に添えるよう職員が同行し、買物に行くように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ、職員の支援が必要な方には職員が個々に対応をしいる。また、入居者様が個人的に携帯電話を持ち込んでいる方もおられ、自由に電話等のやり取りが行えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃をこまめに行い、気持ちよく使用できるよう支援を行っている。季節が感じられるよう、その季節に合ったものを入居者様と作ったり、飾ったりしている。	建物の内部は落ち着いた雰囲気の間作りになっており、利用者と一緒に作った季節感あふれる飾り付けをされています。又季節に合わせた花の植え込みや野菜作りを行い、季節感を感じてもらえるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファの位置や食事のテーブル席など、それぞれの人間関係を考えて決めている。全室畳なので、気の合う入居者様同士が思い思いの居室に入ってお茶会などを頻繁に開いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みのものなどを持って来ていただくようにしている。	部屋の各担当職員が決まっており、室内は清潔が保たれています。自宅から持ち込んだタンスやイス等馴染みの物を置き、壁には家族や孫の写真が飾られ落ち着いた環境を作り出しています。又家族の訪問も多く、中には室内の飾り付け、衣替えを家族が積極的にされ、自宅の様な雰囲気が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に名前(花の名前)をつけており、ご自分の部屋が分かるように配慮している。また、状態や状況に応じて家具などの配置の変更を行っている。		